

西南風



何度でもやります!

先週、菊池教育事務所（県教委）の学校訪問がありました。学校のことについて私と教頭とで説明し、その後、本校全教職員の授業を見ていただきました。

どの教室に行っても、子どもたちはいつも通りです。授業中だけでも大きな声で「こんにちわあ!」とあいさつする児童、「あ、こちょせんせだ!」と無邪気に笑顔で手を振る児童、雰囲気を感じて会釈する大人びた若干名の児童……。繰り返し返しますが、子どもたちは全くのいつも通りです。これが、西南小の子どもたちの良いところだと思っています。もっと言えば、今年はいさつもよく出来るようになってきたと思いますし、全体的により落ち着きを感じるようになっていました。そういう思いの中で、訪問の最後に「子どもたちが落ち着いていますね」との言葉をいただきました。保護者はもちろん、職員の頑張りが子供の姿を通して伝わっていることが、何よりの喜びでした。

さて、ここからが本題です。教育には忍耐が必要です。これは家庭でも学校でも同じ事だと思っています。

約一ヶ月前に破られた障子（一回目）を今週の月曜日に張り直しました。児童と一緒に切り絵で飾り付けまでやって、我ながら「カワイイ出来に満足しました。ところが、火曜日に午前中の外出から戻ると、また破られました。（二回目）

「き、昨日貼り替えたばかりなのに! しかも、一つ残らず。さぞ気持ちよかったですね!」と、怒りと共にひねくれた思いになりかける自分を制します。すると、「しかし、どうしたのだらう?」という気持ちになります。（そうなるようコントロールします）すぐにこんな気持ちになれないところが、私の未熟なところ。子供の行動の背景を知ることが大切です。その時のいろいろな事情を聞きながら、「罪を憎んで人を憎まず」ということで、また貼り直すことにしました。二回目の貼り直しは、破った子も含め三人の児童に手伝ってもらいました。上下の写真にあるように、一度に四枚の障子を貼り替えます。二回目ともなると貼り替えそのものは一時間かかりませんでした。



また、同じく今週のことです。その日はなぜか授業に集中できなくて担任の指示も聞けない児童がいると、ある学級から内線がありました。すぐに児童を職員室にと教頭が指示しました。こういうことは時々あり、担任だけで最後まで対応するよりも組織で対応します。また勉強を頑張りたい他の児童の学習権の保障のためにも、こうした対応をします。すぐに三人の児童がキョトンとした顔で来ました。

教頭「君たちは、なんで職員室に行きなさいと言われたか分かってるの?」

児童「勉強しに来た」

教頭「どうして職員室で勉強するの?」

児童「行けて言われた……」

教頭「授業に集中できなかったからだよね。あなたも勉強に集中しきらんと? それとも先生で変わるの?」

教頭は、この児童たちなら分かってくれるという思いで、指導をしていきました。このやりとりの中で、子供の表情は変わっていき、二人は担任の「先生に謝ってから授業を受けると言って戻っていきましました。もう一人は、意地になっていったのかもしれない。その後もうやりとりが続きました。その時の教頭の背中に「忍」の一字が見えたような気がしました。

こうしたことは別に特別なことではなく学校全体で日々あつてのことです。ご家庭でも同じだと思えます。そして、何があっても、みんな分かる子であり出来る子たちなのです。

とはいえ一回指導すれば改善されるなんて甘いものではありません。教頭が今回指導した児童は、また同じ事で職員室に来るかもしれないかもしれません。二度あることは三度あるという格言を噛みしめています。大丈夫です。何度でもやります。

今朝の雨で、お子さんを車送迎されたご家庭が多かったようです。傘をさしカッパを着て、雨に濡れながら登校する児童の間を縫うように通る送迎車を見ると、我が子を守る送迎がよその子を危険にさらす状況を感じて非常に複雑な思いです。天候に関わらず車での送迎は、特別な理由を除いて極力お控えいただくか、少なくとも今日のような大雨の日に送迎される場合は、送迎時間を登校時間とずらしていただくようお願いいたします。なお、ご存じと思いますが、正門前の道は、七時半〜八時半は警察の通行許可が必要ですのでご注意ください。